

高校2年 地学基礎

地球 「地球内部の層構造」

学校全体の取組

「主体的・対話的で深い学び」
の視点に基づく授業改善

授業の流れ

授業のポイント

演示実験による仮説とデータを比較することで気付く学びから、内容を理解し、理科の見方・考え方を働かせ、身の回りの事象を捉えさせる。



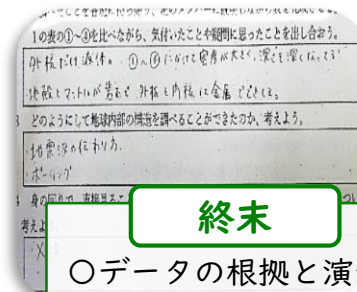
導入

演示実験の結果を踏まえ、直接見ることでできないものを間接的に捉える原理を想像する。



展開

- ① 地球内部の各層について、同じ項目を担当するメンバーで集まって調べた後、班にその情報を持ち帰り、表を完成させる。
- ② 表中のデータを比較し、気付きや疑問を出し合い、内容についての理解を図る。



終末

- データの根拠と演示実験の原理について、考える。
- 間接的に捉える原理を活用した身の回りの事象について、考える。

指導項目

※学習指導要領（平成30年告示）解説
理科編に基づく

- (1) 地球のすがた
 - (ア) 惑星としての地球
 - ① 地球内部の層構造
地球内部の層構造とその状態を理解すること。

評価について

授業で用いたワークシート、取組の様子を見取りを基に、地球内部の各層についてのデータを比較し、規則性や関係性を見出すことや、理科の見方・考え方を働かせ、身の回りの事象を捉えることについて評価する。

目指す生徒の姿

- 自ら気付き、考え、実践・考察することができる。

- ① 教科会で目指す生徒の姿を共有する。
- ② 視点を持った授業参観をもとに、授業デザインのアイデアを共有する。
- ③ 一単位時間内で付けさせたい力を焦点化した授業展開を構築する。
- ④ 「比較することで気付く」学びに重きを置いたワークシートを作成する。
- ⑤ 調べたことについて自信をもって説明することができる場面を設定する。
- ⑥ 理科の見方・考え方で、身の回りの事象を捉える機会を設定する。